

編集 後記

編集顧問 町田 豊平
編集委員 郡 健二郎

小川 秋實 秋元 成太 村井 勝
藤岡 知昭 大家 基嗣

医療の基本は「愛」だと思う。医師は患者に、「思いやり、やさしさ、いたわり」を持ち、患者は医師の献身的な医療行為に「敬い、信頼、感謝」の念を抱く。その患者の笑顔をみて、医師は医療に携わる誇りと喜びと責任を感じる。この循環こそが、これまでの医療を支えてきた力である。

今、医療に「愛」が失われかけているように思う。医学部受験生は面接試験で、「自分の生活を二の次にしてでも患者さんのためにつくしたい」と目を輝かせて話すが、6年後、その志が消え失せている者がいる。3Kと言われる産科、救急医療、外科などに身を投じて若い医師が激減し、医学研究に没頭する医師が減っているのは残念なことである。

10年前、いや少なくとも四半世紀前までは、これら3Kの診療科は不人気ではなかった。このわずか10～20年の間に、わが国は大きな変化をきたしている。それは医療だけの問題ではなく、政治や社会的価値感の変化によるところでもある。

最近の政治の施策は、医療・福祉を道路建設と同列に扱い、時にはロビイストが少ないことをよいことに、医療を軽くみるようになってきた。その考え方は、患者をして医療・福祉は政府から与えられるものであり、医師は税金で雇われた医療の担い手である、との権利意識につながっている。医療過誤の中身を深く吟味もせず一様に非難する社会。医師へのお礼の一言もなく診察室をあとにする患者。この傾向は若年層に多いように思う。

医療をビジネスだとでも考えているのは患者だけではない。医療経営を優先する医師。高い偏差値で入学し

たことに驕りを持つ医学生。残念なことだが医療界も反省すべきである。

医療に愛情がなくなってきたのはなぜだろうか？私は、家族の絆が薄れた社会構造になったことが一因だと思う。戦後、核家族化し、父親の権威がなくなり、家庭内での会話が少なくなってきた。生まれて初めて愛情が芽生えるのは家族への愛である。家族愛なくして他人である患者への愛情など持ち得ない。愛校心、地域愛、祖国愛(nationalismではなくpatriotism)が薄れてしまった日本に、医療に愛を求めることは容易なことではない。

近年日本では、アメリカ崇拜あるいはグローバル化を推進するばかりに、その影として、わが国の良き伝統と文化が失われかけているのが心配だ。日本の長い歴史の中で、外国文化を取り入れ、大きく変化をし、飛躍をとげた時代は多い。仏教大陸文化や明治維新などである。新しい文化を古き文化に融合させ、社会が急速に進展したからこそ、新しい外国文化が根付いたのである。

今、医療が抱える問題の中には医療だけで解決できないものが多い。戦後よき民主主義が芽生えたが、時間とともに履き違えた民主主義がはびこり、日本の伝統と文化を壊している。その影響が医療にも見られる。私たちは、政治のリーダーシップの欠如を憂えるだけでなく、私たち一人一人がわが国を守るのだとの意識を強く持ち、国際社会に貢献しなければならないと思う。

(郡 健二郎)

臨床泌尿器科 (第62巻 第7号) (通巻741号)
2008年6月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円+税 5%)
2008年 年ぎめ予約購読料 (増刊号を含む13冊)
41,360 円 (税込・送料サービス)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709
(担当: 登・中田)
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp
振替口座 東京 00170-9-96693 番
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。
- JCLS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。